

[成果情報名]立枯疫病に強いタラノキの新品種候補「阿波の銀次郎」(あわのぎんじろう)

[要約]「阿波の銀次郎」は、立枯疫病抵抗性を目的に育成した品種であり、慣行品種である「阿波たろう」や「徳島在来」より抵抗性が強い。株の生育、ふかし芽の収量、形状とも「徳島在来」より優れる。

[キーワード]タラノキ、品種、立枯疫病、抵抗性

[研究所名]徳島農総セ農研・中山間担当

[代表連絡先]電話 0883-72-0239

[区分]近畿中国四国農業・野菜

[分類]技術・参考

---

### [背景・ねらい]

タラノメは、中山間地域における冬期の重要な作物であるが、立枯疫病による被害が増加し、面積拡大が困難な状況となっている。

現在栽培されている「徳島在来」や「阿波たろう」は立枯疫病に弱い。「蔵王」等の抵抗性品種も導入されたが、生育が悪く徳島県の気候に適していない。

そこで、立枯疫病に抵抗性があり、徳島県での生育が良好で、収量品質ともに優れた品種を育成する。

### [成果の内容・特徴]

1. 2001年に「徳島在来」と「蔵王」他を交配して得られた種子を、2002年春に播種し育苗した100株の中から選抜した品種で、親株は「蔵王」(♀)×「徳島在来」(♂)である。
2. 本品種の立枯疫病抵抗性は、「徳島在来」および「阿波たろう」より強く、「蔵王」と同等である(図1)。
3. 株の生育は「蔵王」より旺盛(データ省略)で、「徳島在来」並みに優れる。得られる原木は「徳島在来」より重く、2年生は特に太くなり優れる(表1)。
4. ふかし芽は太くて重く、株あたり収量とも「徳島在来」より優れる(表2)。ふかし芽の外観は、市場評価が高い「蔵王」に似る。(図2)。

### [成果の活用面・留意点]

1. 立枯疫病激発ほ場への植え付けは、避けるのが望ましい。
2. 原木の刺が太く長いので、怪我をしないよう注意する。
3. 現在、品種登録出願中である。
4. 利用許諾は徳島県内に限る。

[具体的データ]

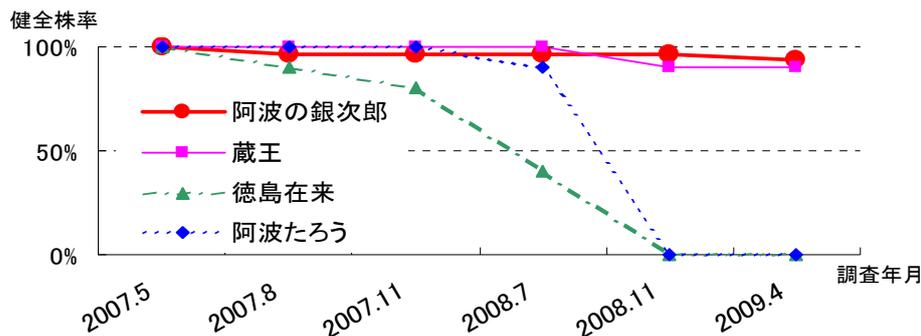


図1 立枯疫病汚染圃場における健全株率の推移  
 2007年5月11日東みよし町の激発圃場にポット苗定植。  
 調査株数は「阿波の銀次郎」が30株、その他品種が各10株。

表1 原木(茎)の特性

品種	1年生			2年生			
	茎長 cm	茎径mm	茎重 g	茎長 cm	茎径 mm	茎重 g	節数
阿波の銀次郎	63	22	182	247	27	1,085	33
徳島在来	62	22	179	288	23	947	33

注)場所:場内ほ場 直径は地上30cm(1年生)、50cm(2年生)の高さで計測  
 定植:2008年6月23日、1年生は2008年、2年生は2009年の落葉時に調査

表2 ふかし(促成)芽の特性

品 種	株当たり			頂芽の形質		
	1芽重 g	芽数	収量 g	芽重 g	芽長 cm	芽径 mm
阿波の銀次郎	5.8	12	69.2	18.6	92	20.5
徳島在来	4.8	10	45.6	8.9	69	18.3

注)ふかし開始:2009年2月6日、調査日:2月24日～27日、1年生原木使用



図2 ふかし芽の荷姿

(高木一文)

[その他]

研究課題名: タラノキ立枯疫病抵抗性品種の育成

中課題番号:

予算区分: 県単

研究期間: 2003 ~ 2011 年度

研究担当者: 高木一文、松村裕、小角順一

発表論文等: 松村ら「阿波の銀次郎」品種登録出願 2010年3月8日 (第24667号)